

8. 河川空間の利用状況

8-1 河川敷地の利用状況

留萌川は、他の河川と比べると、高水敷が狭隘で、利用可能な面積は非常に少ない状況にある。

しかし、このような状況においても、河川空間の利用は、下流域を中心に行われている。特に市街地周辺では、河川敷を利用したオープンスペース、散策やジョギングなどの場として、大いに利用されている。



▲写真-23 川と親しむ



▲写真-24 堤防でのスポーツ

留萌川は高水敷はほとんどなく、利用可能な面積は非常に小さな状況であるが、直轄管理区間内の利用状況を図-13に示す。



図-13 留萌川の利用状況

8－2 河川の利用状況

(1) 上中流部

留萌川は河川空間が狭いことから高水敷はほとんどなく、利用可能な面積は非常に小さな状況である。

しかし、上中流部では、釣りやバードウォッチング、川の自然観察会等の自然を活用した利用もなされている。現在、水辺の楽校を幌糠地区において整備している。

川の自然観察会

河川愛護、水質保全の関心を高めてもらう事を目的にして、実施しています。

観察会では、魚類、水生生物、陸上昆虫の採取及び観察、河川水質の簡易調査を実施しています。



▲写真－25 川の自然観察会

(2) 下 流 部

下流部では護岸等の河川管理施設の整備も進み、また、貴重な水辺空間を活かした小公園が点在することから、散策やジョギングの場、各種イベントの場として、おいに利用されている。

平成9年度の留萌川水系（留萌川）河川空間利用実態調査によれば年間推計で釣り2千人、水遊び7千人、散策等3万6千人、合計4万5千人と沿川住民に広く利用されている。

留萌川まつり（河口から2Km付近）

留萌川とのふれあいを通して、愛郷心を高めようと毎年8月に開催され、落武者川渡りなどユニークな催しが次々と繰り広げられ、多くの市民が楽しいひとときを過ごしている。



▲写真－26 留 萌 川 ま つ り